

No. 1133

ミス東京コンテスト

美と知性を競う大東京祭の「前夜祭」第19回ミス東京コンテスト決選大会」は9月30日、東京日比谷公会堂で華やかに繰り広げられた。

このコンテストは東京新聞主催、東京都後援で審査には美濃部都知事をはじめ18人が当った。

決選大会に出場した地区ミスは46人、司会の桜井長一郎さんの紹介で全員舞台に登場。

審査員と一問一答のうちに大会は進められた。いずれも劣らぬ美女揃いに審査員も当惑顔。結局、ミス東京第一位には大坪伸江さん（20才）一泊江市代表一、第二位には山田美智子さん（21才）一世田谷区代表一、と江坂純子さん（20才）一板橋区代表一の2人が選ばれた。3人はかけつけた家族や友人をはじめ場内からさかんな祝福を受けていた。

3人のミス東京は東京都の女性代表として、むこう一年間美濃部都知事のホステスをつとめ各種の公式行事に参加することになっている。

公営酒場のある町

静岡県浜名湖、ボラやカマスなど秋の味覚をとるカクダテやキンチャク網が、今たけなわ。浜名湖にのびる半島のとったん、浜松市のはずれに村櫛町がある。そこにある一軒の町営酒場、店のはじまりは万延の昔にさかのぼる。

時の代官が「美衣美食、飲酒まかりならぬ」との儉約令を出したものの、役人の目をかすめて飲む者が増えたため、一人一日一合に限って、集会所で売ることになった。それが万延元年のこと。経営は消防団から町の自治会にかわったものの、今年で創業116年を数える。

勤続20年、支配人の松下誠さんは、お店の繁盛のひけつをこう語る「この店が自分たちのものだということですね。信頼されてますし、利益追求が第一条件ではありませんから、皆さんに喜んでいただける店であるということが第一じゃないかと思いません」

これといった産業もなく、小さな町工場が数軒、半農半漁の静かな町。楽しみといえば仕事のあとにいっぱいやることぐらい浜名湖に陽が沈み、一日の仕事が終る頃、町営酒場の灯がともる。コップ酒一杯、たっぷり一合余り入って一級酒で170円、ビール一本185円という安さ、もちろん、音楽もお色気もおつまみもない。しかし、町内に酒場はここ一軒とあって連日おなじみさんで超満員。人口2千5百人足らずの狭い町のこと、漁のことや人の消息など町の情報センターの役割もになっている都会では宵の口の午後8時、小さな町の公営酒場は店を閉じる。